

礎

いしづえ

発刊にあたり

『明日のために』

部長 佐藤 栄一

前回の総会で青年部長を仰せつ
かってから、早いもので間もなく
一年間が過ぎようとしています。
会員の皆様のご協力のおかげで、
大変楽しく活動をさせていただ
いております。

部長という立場で、商工会、役
場などの会合に、度々出席して、
自分の考えている意見等を発言し
ますと、会場のみなさんが大変良
く聞いてくれることに驚いていま
す。その理由を考えてみると、私
個人の力ではなく、部長即ち商工
会青年部の大きな力が、周囲の人
たちを、そうさせているのだとい
う事がはつきりわかります。

自分が部長になるまで、青年部
がこんな力がある団体とは思
いませんでした。個人個人の考え
方を尊重しながら、強い組織力を持
ち、かつエネルギーな行動力
を持つ大へんすばらしい団体とし
て今後の三春町の活性化には、な
くてはならない団体だと感じます。
経済大国、新人類、高齢化社会、
自由貿易など今後の商売は、今ま
で経験しなかった大きな変化に対
応しなければ、経営が今まで以上
にきびしくなるのは目に見えてお
ります。それ故、私たちは若い柔
軟な頭をもって、その変化に対応

できるだけの知識を身につける勉
強をしてゆかなければならないと
思います。親まかせの経営ではな
く、自分自身が、自分の経営方針
に責任を持って商売をしなければ
親が経験して来なかった急激な時
代の流れに遅れるだけでなく、ひ
いては、いつまでも経営者と売り
子、職人、工員の違いの判断すら
出来ない、かたちだけの経営者
になります。又、自分の責任で商売
をしている人は、初心を忘れる事
なく、勉強を続けなければならな
いでしょう。

自分の未来は自分のものなので
自分で切り開かなければなりません。
その未来をより良くするため
若さという武器を、大いに活用し、
あそびに、商売の勉強に、積極的
に行動すれば、自分の将来に、必
ず役に立つと思います。各個人の
商売が良くなれば、三春町の活
化も必然的に行われる事だと思
います。その意味では、私たちが三
春町の活性化の鍵をにぎっている
のではないのでしょうか。

私たちは町の宝です。その宝を
もつとかがやきのあるものにする
為、今後も活発な事業を行って、
ゆきたいと思えます。



プライバシー保護

中野支部

商工青年部「創生」

横田 誠

私も入会して十六年経過し、今年が最後の年になります。多くの人にふれあい大変、今後の人生に、プラスになると思います。青年部活動を見てみますと、電話帳作成、政治活動、姉妹都市「一の関」「世田ヶ谷」等いろいろなイベントに参加してきました。が本来、青年部つまり自分の「商売」の勉強を、してきたかという今一つピンと

きません。今三春は「ダム」、「パイパス」等多くの公共事業が目白押しに行われ、旧町内では、今後道路のセットバック問題が進められます。その時自分の商売がその時代に対応できているかどうか、大変疑問に思います。わが町の隣接点には、多くの大型店が出店してきています。又今後も出来ると思われれます。私が入会してから会費が減ることがあっても増えたこととはないような気がします。後継者である青年部がこのような商圏の中で今後どのような事をしていかねばならないかこの点につき考える時期に来ているように思われます。これからの活動の中に私は隣接の青年部の意見交換など同じ様な環境にあるのでこんな事も年に一、二度計画しても良いように思います。多くの商店の方は、家は持家、家族経営、この様な経営

内容が、今後、続くかどうか大変疑問にも思います。青年部のOBの中にも着々と売り上げをのばし、業務の拡張を行っている方もいます。そんな身近な人の話をして頂く物も良いと思います。

創生と言うことはを辞典で引くと「はじめてつくること」と書いてあります。「ふるさと創生」ではないが、今後私たち青年部、又自分の「創生」を真剣に考え、今後の商売のプラスにして会員の減らない青年部を望みます。

荒町支部

この一年これからの一年

この一年の荒町支部の活動を振り返ってみます。

平成元年三月、支部総会によって現体制が出来ました。当支部は年度計画や予算をたてることなしに、ゆきあたりばったりを宗としておりますので、事業が始まったのは八月に入ってからでした。次に各事業を列挙してみます。

八月。第一回行政勉強会「三春町行政一般について」講師、議会事務局長渡辺俊三氏。それと家族慰安日帰り旅行として、昨夏下旬県内に大災害をもたらせた台風の最中リステル猪苗代へ行って来ました。これは例年好評で今年度も三十余名の参加がありました。九月。衆議院議員穂積良行氏を招いての国政懇談会。特に政治家

の倫理の問題について忌憚のない意見の交換が行われて印象的でした。

十月。第二回行政勉強会「税金について」講師、三春町税務課係長佐々間洋氏を招いて、町の収入の在り様について学びました。

十二月。第三回行政勉強会「町の金のつかわれ方」講師、三春町総務課財政係長湯峰初夫氏を招いて行いました。

一月。新年会を熱海一力旅館で行いました。新年会を岳か熱海で一泊でやるというのもここ十年近くの支部の恒例となっています。

当支部の行政勉強会は、いわば本部の「まちづくり勉強会」の支部版と思つて良いわけですが、この一年間でようやく行政のアウトラインをなぞっただけとなつてしまいました。

来年度は行政の各事業部門をピックアップして、いわば各論の勉強会へもつてゆこうかと思つております。そもそも、我々一般がそうなのですが、町政に対する無知や不勉強故に噂や憶測によって行政に対して(あるいは町長に)不満や不安を持ち、愚痴をこぼしているといった姿があるのではないのでしょうか。こういった状況を少しでも脱け出し、行政に対する批判はきちっとした事実に基づいて行い、自分たちに有利な現実性のある提言が出来ればと思います。おそらく最終的には十回程度の勉強会になると思いますが、最終回には町長さんを招いてみようと思つていきます。

大町支部

「災は忘れたころにやってくる」

三澤 栄光

二年つづきの暖冬で、今年も暦のうえではもう春。先日東京都心近郊にも雪が降り、三十センチも積った所があったとか、高速道路も通行止め、歩けば滑ってケガ人続出、救急車も大忙し、油断大敵災は忘れたころにやってくる。

先日ある新聞にこんな事が書いてあった。「第二次石油危機説」、第一次石油危機(七三年)第二次石油危機(七八年)は既に半ば忘却のあなたに追いやられた格好になっているが、こんにちの国際石油情勢に生じつつあるひずみは、第三次石油危機の発生を頭から、むげに否定できないまでの重みを持ち始めているということである。

世界的な好況の影響、NIE S・ASEANなどの工業化・省エネ意識の薄れで、エネルギー消費料は拡大の一途だという。さらに東欧の政治・経済改革によってエネルギー石油需要がのびると見ている。しかしソ連の民族紛争も手伝って石油生産の減少、さらに原子力発電はチェルノブイリの事故以来、社会的反発が強く野放的増設はむり。今のところでは代替エネルギーの開発もまだ夢ということだ。石油エネルギーの需要は拡大の一途。需要と供給のバランスはくずれ、八〇年代の一パ一レルおよそ一八ドルの好水準が一パ一レル二五ドルから三〇ドルに上昇すると見ているのである。「のど元過ぎれば熱さ忘れる」の諺のように、だれもが今の状況に、どっほりと浸かっている。自分自身もあのころの事を忘れてい

赤井幸夫

三春に戻ってきて早二年——。帰ってきた四月は、PTA、消防そして青年部、その他わけのわからぬ間に名を連らね、夜毎、総会、あーソーカイ。

ほぼ同じメンバーの顔合せで、一回集まりや全部済んじまう、の冗談にマジでうなずいておりました。良くも悪くも地域社会と一人合点をして、電話帳作成、知事選二〇周年フェスティバル、講習会、研修会、本当にアツという間でした。

運転で例えるなら、サイドブレーキを引いたまま走って加速しないと嘆き、坂道をトップギヤで登りきろうとハンドルに力を入れたり、自分はしていたのですネ。

この頃になってようやく肩の力も抜けてきたようです。他ならぬ自分たちのために、微力ながらだれかのために、楽しくガンバラなくっちゃ。

新町支部

自分の中の坂本龍馬

高橋龍一

正月の夜、もう十年以上の付き合いになる友人達と、例年の如く酒を飲んだ。

学生の頃は遊びの話ばかりしていたが、最近では、仕事の話や、今後の人生の話まで、ついつい話が広がってしまう。

飲んで話して、話しては笑う、皆、二十代後半へ向っている男たちなのだが、語り合ううちに、だん

だん顔が学生の頃にもどっていく。私は、いい気分になって喋りまくる、そのうち十八番の話を出すと、また講釈が始まったと、友人達が、半ばあきらめ顔で言う。

それでも得意げに話している。私の話を聞いてくれる。学生の頃は全然聞いてくれなかったのだが、最近少しづつだが聞いてくれるようになった。その話は、日本人坂本龍馬の話だ。前とは違って龍馬の行動、考え方そのものではなく、大げさに言えば彼の生き方に自分の生き方を少しも近づけたい私の話の友人達も多少なりとも共感してくる所があるんじゃないかと自負している。

私は一度も会ったことの無い男の話をもう十年間語り続けている。情熱というよりも、おろかさに近い。その男はとうの昔に死んだ男で、私とは何のつながりもない。ただ名前の龍の一字が同じだけで、なぜ憑かれた様に話しているのか自分でも判らない。ただ十年前の龍馬と、今の龍馬では、私自身の成長とともに成長してきた様な気がする。それを自分の生き方と照らし合わせ、己の夢もしくは参考書の様に思っているが、度々くじけそうになる。そうたやすく龍馬の生き方、己の夢の様なものへ向うては走らせてはくれない。そういう時もう一度「龍馬がゆく」を読み返す。何かかっこいい言い方ですが、読み返すたび、私の中の龍馬が「疲れたかね、苦しいか、あきらめるか、でも俺はそこを笑って通ったことがある。」と言っている様な気がしてまた夢に向って走りだす。

西郷隆盛と大政奉還実現後、新政府の人選している中に、「役人はいやだ」といったとい

う西郷がおどろき、では何をすると聞いた時に、「世界の海援隊でもやる。」と言ったというそういう龍馬が私は好きです。

八幡町支部

「ふれあい広場」報告

一、平成元年三月上旬

「商工会青年部八幡町支部」を一般の人達にアピールできるイベントを企画しようとの声が会員の中心より出る。

五月中旬
具体的内容の検討に入る。
出された企画案、三十八件。

五月下旬
企画の内容を決定。

目的

「一般の人達に「青年部」の存在を強くアピールする。又、そのアピールした事によりその後の活動のバネとなるものを得る事。」

イベント内容

- 「イベント名」「ふれあい広場」
- 産直野菜の販売
- 商工会婦人部八幡町支部の皆さんの協賛による「模擬店」
- 「昔の遊び道具」コーナー
- ラジオ福島チャリティー協賛の「子供釣り大会」

(会場 八島台中央公園)

六月中旬

各種のイベントの物資調達、運営の役割を分担

七月

イベントの小道具作成開始

八月上旬まで続く

八月中旬

盆中は活動を休む

八月下旬

内容を最終的につめる

各イベントの小道具完成
九月上旬

物資の調達及び学習を兼ね、東京日本橋の間屋街に車輜にて上京
開催日前日

リースのテント、大型の機材を会員のトラックにて搬入、設営。
開催当日(九月十七日)

午前七時より準備開始。

午前十時開場。天候にもめぐま

れ一般の入場者数、約八〇〇名。

イベント、及び販売物品のほぼ、

九〇%を消化。

午後五時終了。

九月十八日

ラジオ福島にチャリティー募金箱を持参。

以上が八幡町支部の「ふれあい広場」の立案から開催までの活動です。

八幡町支部単独の大きなイベントはこれが最初であり、特に一般の人達を対象とした企画である為に、ニーズをうまくつかみきれない部分があり、それが商品の一部売れ残りという結果となりました。

二、一支部単位でのイベントとしては、内容をいま一つしぼりこむことができず、かなり人手の面のハードな部分がありました。

しかし、日常の仕事とは一八〇度違った仕事(イベント)を通して一般の人達に接する事ができた事は、これからの仕事の面でかなりプラスとなる部分があったように思います。

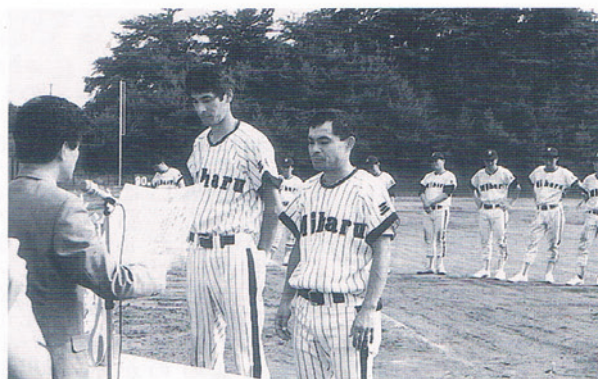
いままでも、扱った事のない商品の販売は、日常の自分の商売に対する考え方をもう一度見つめ直すいい機会であったと思います。

次回のイベントの計画はまだ、未定ではありますが、もし実行する時は今回よりも、もっと進化した企画を計画、実行していきたいと思えます。

ヤツタゼ！優勝 県中大会

さる八月二十一日、いわき市に於いて商工会野球県大会が行われ、敵しい地区予選を勝ち抜き、県中第一代表として五十九年以来の県大会出場を果たしました。レベルの高い郡大会（都路）第一戦の船引に勝ち、第二戦大越には、二対二の接戦の末、さよなら二ランホームランでにげきり、決勝は優勝候補の都路との対決。相手投手の乱調で先制、すぐに反撃されたが最後まで守り抜き三対四で優勝。県中大会（日和田球場）は第一戦から優勝候補の喜久田チーム。速球派の好投手で、仲々打てず押されぎみの試合展開、相手の失策で一点を取り毎回のピンチを何とか守り抜く。特にスクイズを二度見破るバッテリーの好判断で勝つ。決勝の鏡石戦は理想的な試合展開で六対三で強い三春を印象づけ県中初優勝を飾る。とうとう迎えた県大会では、いきなり昨年度優勝・塙を破った強豪・中島村との対決、早朝より練習し臨むが、ミスが重なり力を出しきれぬまま八対一で破れレベルの違いを痛感。来年も商工会野球の「甲子園」をめざして頑張りたいと思います。選手はじめ、応援いただきました皆様ありがとうございました。

監督 小笛 宏



私は、この商工会の野球ほど、楽しくプレーをした事はありませんでした。特に優勝し、皆さんと一泊して、親交を深めました。ただ県大会での不成績を御詫びし、又、機会があれば参加したいです。

郡信 三春支店 赤羽 剛

今回、二度目の県大会出場をばたし、長い野球人生の中、県中大会などは、緊迫した好ゲームの中メンバーで戦った事を、青年部員としてほこりに思います。

次回は、今回におごらず『県大会優勝』の五文字に、未熟ながら貢献したいと思っています。

レフト 大内 春幸

高校野球以来、十何年ぶりで『これぞ野球』という緊張感を味わうことができ、充実感でいっぱいだった。特に県中大会、喜久田戦では、二度もスクイズを見破り、捕手冥利に尽きる思いでした。

これを機会に、三春町の活性化につながればと願っております。

小笛 聡

今大会は、県中大会からの出場でしたが、皆さん驚いた、あのホームランを、次回は、三度はお見せしましょう。

増子 弘昌

今大会の成績におごらず、次回も若い力を結集し、さらに上を目指したいと思えます。

渡辺 宏二

私の加入が大きかったといわれる様、次回はグレードアップした華麗な姿を、是非とも若いつもりでいるベテラン組に見せたいと思っています。

本田 正弘



選手の皆さん、応援していただいた皆様、部長として心から感謝致します。今年度の輝かしい成績をSTEPとしまして、来年度も精一杯頑張ってもらいたいと思えます。そして、三春町の若者の強さ、たくましさ、素晴らしさを、アピールしましょう。以上

青年部長 佐藤 栄一

まぼろしのホームラン！

勝負とはきびしいものです。

渡辺 正一

県大会は、一回戦で負けたけどこの次はもっと頑張りたい。

村田 信一

来年は、東北大会をめざしたい。

熊田 正美

あまり活躍出来ず、不本意な成績に終わってしまったが、悔いも残らず、二日間楽しく過ごせて良かった。

湯浅 勉

『神様、仏様、赤羽様！』これにつきます。

橋元 勝紀

事業報告

※ 厚生委員会

○元年七月五日

支部対抗バレーボール大会

優勝 荒町支部

○元年十月二十九日

ソフトボール大会

○二年一月二十二日

献血

次の十六名の皆様、あなたこそ、「三春の宝」です。

佐藤栄一君、佐久間勝則君

渡辺正一君、村田信一君

小笛 宏君、村上瑞夫君

熊田正美君、細川寿男君

麻野清一君、高橋龍一君

吉村 剛君、橋本一秋君

渡辺則善君、橋本俊宏君

高橋民弥君、佐久間豊君

○二年二月一日

新春ボウリング大会

37名参加

優勝 吉田清三君

○二年二月十三日

新年会

※ 経営対策委員会

○元年七月十七日

制度資金利用説明会

21名参加

○元年十一月十八日

ラッピング講習会

20名参加



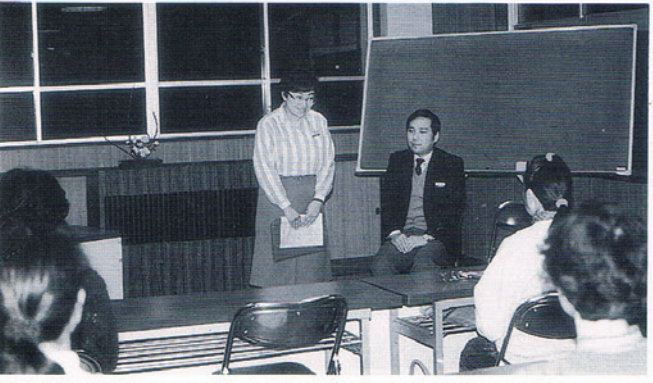
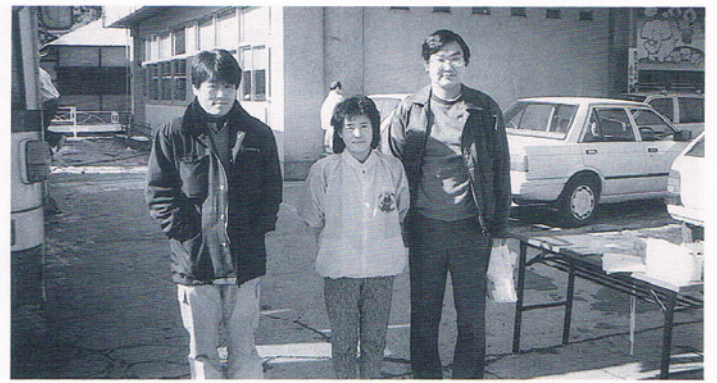
一日酔でブレイしたの誰だ？



おつかれさん



次回は四〇〇ccをお願いね！



私は西武の人ですよ！



仕掛けた人 伊藤 清春君
(伊藤理容所)
頑張った人 美代子さん
希望の星 三男 学くん
平成元年十二月十三日生

話しているのに立ち寝している人は誰れかな



婦人部員の方がねっしんに勉強したかな



※ 本 部

○元年五月五日

稚児行列

○元年五月十四日

追肥 於町営野球場

参加協力者 26名

○元年七月十一日

田村郡商工会親善野球大会

優勝 三春町チーム

一回戦

三春 3 5 1 0 3

船引 2 0 0 0 2

二回戦

大越 0 0 0 2 0 1 0

三春 0 2 0 0 0 1 2

決勝戦

三春 1 1 2 0 1 0 0

都路 1 0 2 0 0 0 1

4 5

5 3

『昨年の野球は、二回戦の大越との戦いでの、本田正弘君のサヨナラ・ホームランにはじまるのです。危ない試合でした。劇的でした。』

若きパワー全快でした。』

○元年八月三日

商工会親善野球県中地区大会

於日和田球場

優勝 三春町チーム

一回戦

喜久田 0 0 0 0 0 0 0

三春町 0 0 1 0 0 0 0

決勝戦

鏡石町 0 0 0 2 1 0 0

三春町 1 0 4 1 0 0 x

6 3

『胃の痛くなる喜久田戦を最少得点差でものにし、決勝戦

は、そのウップンを暗らすかの様に猛打爆発。赤羽・増子に待望の一発』

最優秀選手賞 木下定美君

打撃賞 赤羽 剛君

○元年八月二十日

第23回商工会親善野球

福島県大会

於いわき市小名浜球場

○元年九月二十五日〜二十七日

吉備高原視察研修会参加

○元年十一月十日〜十二日

一関地方産業まつり参加

青年部員十六名参加



一関 産業まつり

吉備高原都市視察を終えて

荒町支部 三瓶一寿

私共、田村郡商工会青年部は、福島県が、第4次全国総合開発計画の一環として『阿武隈新高原都市構想』の検討に着手したのを受けて、我が県に先駆けて事業が実施され、岡山県のほぼ中央に位置する吉備高原に築かれた、未来をみつめたコミュニティゾーン『高原都市』の視察研修を実施した。この高原都市の特徴は、人と人、人と自然環境の拘わりを重視した、西日本の保健、福祉、文化のセンターを目指している。それから広域高速交通網（山陽新幹線・山陽自動車道・中国横断自動車道・中国縦貫自動車道・岡山西空港）とダイレクトにアクセスする。それからこの高原都市は7つのゾーン（①センター区、②産業区、③農用区・緑地、④住区、⑤保健福祉区、⑥研究学園区、⑦自然教育レクリエーション区）から構成され、その使命を果している。

これらに関連する諸事業の中で特筆すべき事項は、第一に下水道設備の充実である。人間の生活文化の高度化・多様化、生活水準の高位平均化された昨今、我々の生活が非常に便利になる反面、その自然環境は地球規模で悪化の一途をたどっている。やはり人間にとって最も重要な水と空気は、人間が維持管理していくべきものである。第二に自然の地形を極力利用した都市造りを心がけて居ることである。このプロジェクトは全体で一八〇〇ヘクタールの開発利用計画であるのだが、殆どが山間部で、周囲を見回しても山又山、その様は正に阿武隈山系そのものである。このように自然に恵まれた環境を開発の名のもとに破壊し尽くすべきではない。今や、環境問題は地球規模で考える事態である。そんな訳でこれからの都市はやはり、自然と共存するものでなければならぬ。

第三にこの地域に於ける誘致企業の実態であるが、株式会社林原生物化学研究所をはじめとする、高度技術を駆使した会社や、吉備松下株式会社、株式会社吉備NC能力開発センター（第二セクター）等の社会福祉関連の会社等、高品位な近未来の会社の姿を見るような気がした。最後に今後、問題が出るのではないかとされる点を上げれば、第一にこの吉備高原都市は、加茂川町、賀陽町、岡山市の三都市にまたがっており、又このプロジェクトは国、県、市町村（複数）及び民間の協力からなっている。特に国及び県の強力なバックアップのお陰で、今のところ特別に問題は起きていないようである。しかし今後、自立し独歩で歩み始めるころ、複数市町村の利害、各市町村の自治等の面で問題が起きるのではないかと思われる。

第二に現在この都市の人口が、約一六〇〇人（内既在人口一〇〇〇人）、前期計画人口六七〇〇人、全体計画人口三〇〇〇人と言ふことであるが、現在この中にショッピングセンター等の商業施設を誘致し、将来に渡って拡大して行くのは現状ではかなり困難に思える。現に住民の殆どは岡山市内にシヨッピングに出かけているようである。



吉備高原都市の現状から、阿武隈新高原都市を考えるに、いざ実現しようとする地域住民の合意も含め、色々と問題は出ると思うが、それでも岡山県よりは少なくとも立地条件は良いと考える。何故なら、遷都問題が論じられる現状から東京から一時間そこそこで来れる距離は魅力である。しかし、ここで最も重要な事は『決断と実行（行動）』であると思う。

ようとする地域住民の合意も含め、色々と問題は出ると思うが、それでも岡山県よりは少なくとも立地条件は良いと考える。何故なら、遷都問題が論じられる現状から東京から一時間そこそこで来れる距離は魅力である。しかし、ここで最も重要な事は『決断と実行（行動）』であると思う。

編集後記

総務委員長 村上 瑞夫

『礎』第7号の発行、ようやくこぎつけることができました。

初めてのことで、作業の手順の悪さなどもあり、急な原稿を依頼した部員の方もありましたが、皆快く引き受けていただき、感謝いたします。

とにかく、打合せを始めたのが遅く、総務委員会独自の企画など用意できませんでした。この点は次回の宿題として、取り組んでいきたいと思っております。

又、事務局には、資料整理や印刷の手配など、多忙な中で、時間をさいていただきました。この場を借りて、お礼する次第です。



商工会ではこんな事業を行っています。

■ **きっと、商工会で解決してくれます。**

● 経営に関する相談

あなたのお店、工場の金融・税務・経理・経営・労務・法律・取引など経営全般について経営指導員が商工会の窓口、または企業を巡回して相談・指導にあたります。むずかしい問題は専門指導員が担当します。

● 講習会・講演会

会員に正しい経済情勢を認識していただくため常に広い視野に立って、講習会・講演会などを行います。講師には学者・税理士・中小企業診断士・弁護士・業界の名士や経営コンサルタントを迎えます。

● 記帳指導と事務代行

帳簿の記帳・労働保険などの事務指導や代行も行っています。

● 福利厚生の事業

事業主や家族、従業員などのレクリエーションや優良な従業員の表彰も行います。

● 情報の提供

国・県や市町村の行う各種の商工業者に対する施策の普及・資料の提供を行います。さらに、経済界の情勢や実態の資料提供と各種関係団体の事業・制度の普及を行います。

● 検定試験

珠算検定・販売士検定の試験を行っています。そのほか各種技能検定試験のお世話もいたします。

● 地域経済の開発

あなたのお店や工場がますます発展するとともに商品の流通が便利になるよう研究や開発にもつとめています。



みんなで描こう “未来の地域”

金融・税務・経営のご相談はお気軽に商工会へ

商工会加入のご案内

商工会とは

「商工会の組織等に関する法律」に基づいて、県知事の認可によって設立された公益性の強い法人で、町内における商工業者が連帯し、お互いに助け合いながら地域商工業の経済的、社会的地位の向上をはかりつつ、地域の発展に貢献する任意団体です。

商工会のもつ2つの性格

I 経営改善普及事業

国および県の小規模企業対策を、国および県に代って具体的に推進するという指導団体としての性格。

1. 金融相談 事業資金のあっせん	2. 税務、経理相談 記帳、決算のしかた	3. 労務相談 労働保険事務
4. 経営相談 経営診断	5. 各種制度の紹介 ○小規模企業共済 ○中小企業倒産防止共済 ○特定退職金共済 ○商工貯蓄共済	6. 経営等に関する 講習会、講演会の開催

II 一般事業

地域商工業者を会員として組織する自主的な地域経済団体としての性格

1. 総合振興事業 行政庁等への意見活動	2. 商業振興事業 商業部会活動	3. 工業振興事業 工業部会活動
4. 観光振興事業 地域観光開発、各種イベントの実施	5. 税務対策事業 税務関係機関との連絡協調	6. 金融対策事業 金融機関との連絡協調
7. 労務対策事業 優良従業員の表彰	8. 青年部、婦人部対策事業 青年部・婦人部活動	

●いつでも加入を受付けております。お気軽にお申し込み下さい。